研究開発課題概要書

１．　課題名（期間）

安心に関する住意識の調査研究（平成１７年）

２．　主担当者（所属グループ）

小島隆矢（住宅・都市研究グループ）

３．　背景及び目的・必要性

「安全で安心な建築・都市」が広く国民に求められていることは論を待たない。加えて、平成16 年度国土交通省重点施策においても「ユニバーサルデザインの考え方に基づく国土交通政策の構築」「安心でくらしやすい社会の実現」「テロ対策や大規模災害対策等の危機管理・安全保障対策等」など、安全安心に関連するキーワードが並ぶ。

ここで、「安全安心」を「安全」と「安心」に分けて考えてみると、住生活における主観的「安心」と物理的「安全」の乖離がリスク増大をまねくという問題が現実的に発生している（回転ドアの事故は端的な例である）。

また、生活者が知覚するのは主観的「安心」である。安心が損なわれることは生活環境に対するＣＳ低下に直結する。さらには住居選択などの意思決定を左右する（２００４年に実施のある調査データによれば、住居選択時に重視する観点のトップが「治安」であった）。

このような、安全安心に関する主観的側面については、防災・防犯・日常生活事故のいずれの分野にも共通する問題でありながら、どの分野においても知見が乏しいのが現状である。

本研究課題では、上記のような背景から、安全安心に関する主観的な側面に関する問題について、現状把握を目的としたＦＳを行うものである。

４．　研究開発の概要・範囲

本研究でなすべきことは、次の３点である。

①安心についての現状における知見の整理
②生活者意識調査による安心に関する住意識の把握
③今後の研究課題につなげるための検討

①については、各分野における既存の資料（論文、関連法規、基準類、統計資料など）、専門家ヒアリングなどを情報源として、すでに分かっていること、仮説として想像されること、および解決すべき問題点などを抽出・整理するものである。

②については、①の結果に基づき、意識調査によって調べることが必要かつ可能な問題について、調査を実施する。

③については、①②の結果をもとに問題点を再整理し、他の関連研究課題の動向も併せて検討を行い、今後の研究課題の抽出・検討を行う。

なお、①の作業は基本的には防災・防犯・日常生活事故の各分野ごとに進めるが、②③においては分野横断的に研究を遂行する。また、いずれの分野にも該当しないが日常の安心を脅かす要因も多々あるので（高層居住、過疎・過密、近隣環境ストレス、開放感・圧迫感、緑化による安らぎなど）、本研究では、これらの要因を仮に「住環境ストレス」と呼び、研究対象に含めるものとする。

５．　達成すべき目標

・平成１８年度以降の研究課題の立案あるいは現行の関連課題への成果インプット
・「集団規定の性能水準に関する研究会」への成果インプット
・研究論文などの形での研究成果公表